

Economic Indicators

定例経済指標レポート

テーマ：景気動向指数（2013年6月）の予測

発表日：2013年7月31日（水）

～一致指数、先行指数とも低下だが、上昇基調に変化なし～

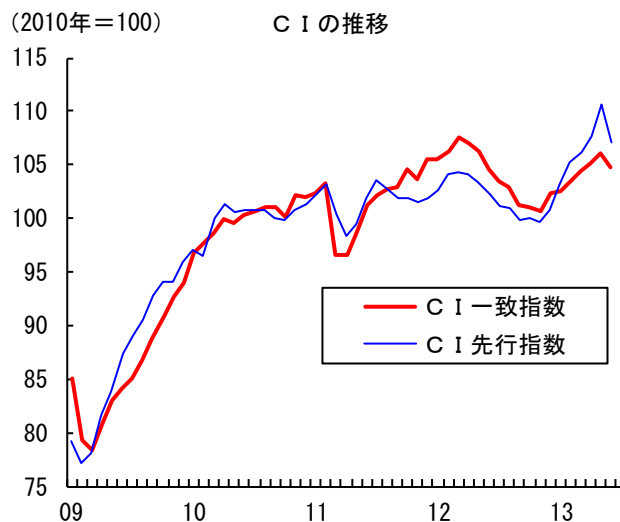
第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

内閣府から8月6日に公表される2013年6月の景気動向指数では、C I一致指数は前月差▲1.1ポイント（5月：+0.9ポイント）を予想する。内訳では、鉱工業生産指数、生産財出荷指数、投資財出荷指数など、生産・出荷関連系列のマイナス寄与が大きい。C I一致指数は7ヶ月ぶりの低下ではあるが、①これまでの上昇の反動の面もあること、②7月の生産予測指数では急上昇が見込まれており、7月のC I一致指数はプラスに転じる公算が大きいこと、などから考えると、昨年11月をボトムとした上昇基調に変化はないと判断できる。

先行きもC I一致指数は改善が続くだろう。円安効果の発現などから輸出が力強さを増していくにつれ、回復感が徐々に強まる可能性が高いとみている。

C I先行指数は前月差▲3.5ポイントが予想される。悪化は7ヶ月ぶりであり、低下幅も大きい。ただしこれは、これまでの急ピッチの上昇の反動によるものとみられ、懸念は不要だろう。内訳では、株価の下落を受けて東証株価指数のマイナス寄与が大きかったほか、消費者態度指数、生産財在庫率指数、最終需要財在庫率指数なども押し下げ要因になった。

内閣府によるC I一致指数の基調判断は、前月から変わらず、「上方への局面変化」が予想される。6月のC I一致指数が前月差マイナスになることから、基調判断の上方修正は見送られる見込みだ。「改善」への上方修正は7月分で実現することになるだろう¹。なお、「局面変化」の定義は「事後的に判定される景気の山・谷が、それ以前の数か月にあった可能性が高いことを示す。」である。昨年11月を底に景気が回復局面にあることが示唆されている。



(出所)内閣府「景気動向指数」

(注)直近の2013年6月は第一生命経済研究所による予測値

¹ 翌7月分のC I一致指数が前月差でプラスになれば、基調判断は「改善」へと上方修正されることになる。7月のC I一致指数はプラスになるとみられ、7月分での基調判断上方修正の可能性は高い。